

ICD セクション XV 10 周年記念カンファレンス・

新フェロー認証式 参加報告

国際交流委員会 理事 森永宏喜

4 月 18 日～20 日にマレーシア・ペナンで開催された ICD Section XV 10 周年記念カンファレンス・新フェロー認証式の参加報告をさせていただきます。

Section XV との交流は日本部会としての公式活動ではありませんが、今後の発展的展開を期待して親交を深めて参りました。

ICD 日本部会は、かねてより韓国部会、台湾部会と姉妹協定を結び定期的な交流を行っていますが、国際交流委員会では数年前よりその他のセクションとの交流の可能性も模索しています。その一環として今回、Section XV から上記式典への招待を受け、小野清一郎フェロー（当委員会常任理事）、秋山逸馬フェロー（同副委員長、シンガポール開業）とともに参加して参りました。

ICD セクション 15 (Section XV) は、アジア太平洋地域 13 カ国（マレーシア、シンガポール、インドネシア、ブルネイ、タイ、ベトナム、カンボジア、ラオス、バングラデシュ、パキスタン、香港、マカオ、アフガニスタン）の各 District を包括しています。今回のカンファレンスの会頭であり、セクションの会長でもある Dato' Dr How Kim Chuan は今回の開催地マレーシアの ICD を率いています。





Setia SPICE Convention Centre 全景

会場となった Setia SPICE Convention Centre は 地下の 4,500 平方メートルの柱のないボールルーム、マレーシア最大の屋上庭園（約 25,000 平方メートル）などから構成され、ペナン州での国際的なイベントや展示会の開催地としての地位を確立しています。



会場入口裏に設置された巨大なテーマパネル

10th ICIC(International Conference and Induction Ceremony) ICD Section XV

- ・ 日時：2025 年 4 月 18 日（金）～20 日（日）
- ・ 会場：Setia SPICE Convention Center（マレーシア・ペナン州バヤンレパス）
- ・ 会頭：Prof. Dato' Dr. How Kim Chuan (ICD Section XV Organizing Chairman)
- ・ テーマ：「デジタル AI 技術が医療・歯科医療業界を変革する新時代」

☆偶然の出会い

開会式に先立ち参加した「Global Oral Healthcare Leaders Forum」のパネリストは ICD 国際会長の Dr. Ian Doyle、会頭の Dr. How、中国の大学教授など。口腔と全身の健康の関係をいかに啓発し、対策を社会実装していくかといった議論でした。



Global Oral Healthcare Leaders Forum に勢ぞろいしたパネリストたち

引き続き開会式です。Dr. How の開会宣言、要人のスピーチに続きアトラクションも登場。日本から招聘された演者の一人である矯正専門医・佐本 博先生（東京都ご開業）と偶然となり合わせとなり、以後多くの行動を共にさせて頂きました。

☆カンファレンスと認証式、けた違いの人数に驚く

2 日目の午後には、メイン会場で新フェロー認証式が開催されました。



認証式には多くのセクション・ディストリクトが参加した

開始前には新フェローが思い思いに壇上に上がり記念撮影するなど日本や台湾、韓国にはみられない雰囲気でした。

式典では各国の国旗に続いて各ディストリクトの新フェロー（総計 150 名以上）が入場しますが、セクション VI のインドやネパールの国旗、南アフリカの国旗と新フェローなども含まれていました。



ICD の正装をまといスピーチする Dr. How



Dr. Ling (Section XV 事務局長) によれば、香港での一番人気の旅行先は東京、ついでバンコクだとのこと

☆ ムスリム式の Gala Dinner

2 日目（19 日）夜開催の Gala Dinner のドレスコードは Black Tie、正賓はペナン州の Executive Committee member です。

国歌斉唱に続き多くのスピーチと各種の表彰が行われました。小野フェローが持参した日本土産と、セクション XV が用意した記念品の交換も壇上で行われました。



Gala Dinner には約 300 名が参加した



演者の佐本先生と Dr. How



プレゼント交換した小野フェローと Dr. How



Gala Dinner で Doyle 国際会長ご夫妻と



シンガポール ICD を束ねる Dr. Phua と



ディナーの前菜とメイン飲料のココナッツローズドリンク。
ムスリム式でアルコール飲料の提供が一切ないガラディナー



カンファレンスの合間に会場そばの市場を視察
歯科医として東南アジアの食生活を実感する貴重な機会となった

☆AI とデジタル、そして VR シミュレーター

企業展示で特に私たちの目を惹いたのは 中国・UNIDRAW 社の VR 技術を応用した教育・実習システムでした。



非常にコンパクトなシミュレータ



VR 抜髄を体験する筆者



スコープから見える視野

この機器はすでに中国国内の主要な大学で教育に使われているとのこと。技術力の高さに驚かされました。



3 日目（20 日）に行われた佐本先生の 2 回目のレクチャー。
 テーマは矯正領域でのデジタル技術と AI の融合
 アバターが流暢な英語でレクチャーする斬新なスタイル



ご講演の慰労と、これからのビジョンの共有。佐本先生には来季の ICD 入会を皆で強くお勧めした
 奥右：佐本先生、奥左：小野フェロー、手前右：秋山フェロー、手前左：筆者

☆視察を終えて

Section XV との交流を 10 周年のタイミングで初めて実現できたのは非常に有意義だったと思います。韓国・台湾部会とは勝手が違うところはあると思いますが、共通の理念を共有しつつ交流を広く進めていけたらいいなと思います。

（森永宏喜）

2024 年 4 月にペナン島で行われた ICD Section XV 10 周年記念カンファレンス・承認式に参加してきました。シンガポールで臨床を行っているという事や SDA（シンガポール歯科医師会）や MDS（マレーシア歯科医師会）に登録していることもあり、顔見知りが多い大会でありましたが Section XV の会合自体に参加するのは初めてでしたので、仲の良いシンガポール人歯科医師からは私が JICD 所属会員である事は公言していたため「本当に JICD なのだ!!」と数名の先生から冷やかされました。さて、Section XV の承認式ですが承認されるニューフェローの多さと出身（？）国数に驚きました。

かつてミャンマーの ICD に参加したことがあったのですが、いつの間にかに Section XV に併合されているかの様な印象も受けます。私自身も ICD 同期の大岡フェローと共にオーストラリアで承認式を受けた経緯があるので合同承認式の形を採っていたのかも知れません。

承認式といえば、所謂「ナイチンゲール誓詞」と共に行う看護師の戴帽式や医師・歯科医師が行う「ヒポクラテスの誓い」と同じ様に、ICD においては歯科医師として経験と実績を重ね選ばれたドクターが気持ちも新たにすると考えていますが、国によっての差異は大きく驚かされます。歯科医師法は国内法であるため国による差異は当然と言えば当然なのですが、新フェローの反応や将来のビジョンも違うのかと思われるます。

南アジアは古くから多文化共生で、多言語・他民族がゴッチャになっている暮らしなので改めて感心することが多いセクションなのですが、JICD 会員としては「隔たりのない日本の歯科医療のポリシー」の基に多くの国々と係わっていくことが大切と思う事と、先ずは「はじめての一步」を踏み出して関係を進化していくことが大切かと思いました。あっ！私は Section XV が発足する前からシンガポールで歯科医療に従事し「文化が違う」と思っていました。

(秋山逸馬)

昨年度の ICD Section IX フィリピン部会に続き、今年度は初めて Section XV 東南アジア部会の認証式に視察を兼ねて参加して参りました。驚愕したのはニューフェローの多さで、150 人以上はいたかと思っています。そして、ニューフェローの多さにも圧倒されましたが、認証式の会場と開催規模の盛大さにも、創立 10 周年という記念すべき節目の年とはいえ、特筆すべき豪華さがありました。

会場のコンベンションセンターとそこに併設されている我々のホテルは、非常に近代的なデザインと清潔感に包まれた快適な施設でした。冷房の効いた余裕のある空間と南国の日差しと暑さが程よく異国情緒を掻き立ててくれました。

フィリピン部会の認証式でもその国の文化や伝統というものが色濃く演出に盛り込まれていることに感銘を受けましたが、東南アジア部会においてもその独特な雰囲気と演出の凝りようには感心いたしました。このセクションのエネルギッシュな「勢い」というものをひしひしと感じ、大変勉強になった次第です。

今回の旅でも、やはりその国の事情は文字やホームページの画像だけでは十分に知ることはできない、実際に現地に足を運んでみないと実情や実態は理解できない、ということを痛感いたしました。直接人々と出会い、語り合い、一緒に食事をする、そういった付き合い方、懇親のあり方がこれからも大事なのではないかと感じました。次はどのセクションへ旅をしようか、どんなフェローと出会えるのだろうか、そしてどんな食事や体験がそこに待っているのだろうか……。今も私の頭の中は、ウキウキ・ワクワクとした高揚感でいっぱいです。

(小野清一郎)